

IAUD Newsletter vol.5 第4号 (2012年6月号) 目次

1. 特集：IAUD 総裁 寛仁親王殿下ご薨去・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

IAUD 総裁 寛仁親王殿下ご薨去



IAUD 総裁の寛仁親王殿下は、6月6日午後3時35分、入院先の杏雲堂病院で薨去（こうきょ）されました。享年66歳でした。謹んで哀悼の意を表します。

13日の寛仁親王邸（東京・元赤坂）でのお通夜と、14日に豊島岡墓地（東京・大塚）で営まれた「斂葬（れんそう）の儀」には、川原啓嗣専務理事と川原久美子事務局長が参列しました。その様子を川原事務局長に報告していただきます。

6月12日（火）と13日（水）の2日間にわたり寛仁親王邸応接間で営まれたお通夜には、喪主である長女の彬子（あきこ）女王殿下、次女の瑤子（ようこ）女王殿下、皇太子両殿下ほか皇族の方々、そして親族、特別縁故者、衆参両院議長、最高裁長官、閣僚らが次々と参列しました。参列者は、白い布が張りめぐらされた広間に安置されたひつぎを前に拝礼し着席して、亡き寛仁親王殿下をしのびました。拝礼は30分ごとに入れ替わり、深夜まで続いたとのことでした。

私共は13日（水）夜の4回目の拝礼でしたが、ひつぎの側で、義兄にあたる旧陸奥中村藩主の相馬家33代当主・相馬和胤（かずたね）氏が司祭長（葬儀委員長）として神主の装束に身を包み、終始微動だにせず寛仁親王殿下をお守りされているのが印象的でした。拝礼の後、20分間照明が落とされ、参列者はそれぞれ殿下の思い出を胸中に、無言のまま最後のお別れの時間を過ごしました。清涼な空間に静謐な時間が流れていました。

毎日 jp からのリンク

<http://mainichi.jp/graph/2012/06/13/20120613k0000m040062000c/001.html>

6月14日（木）の「斂葬の儀」のうち、告別式にあたる「葬場の儀」には皇族方、親族、野田佳彦総理ほか政財界の関係者、各国駐日大使など計約650人が参列しました。私共が赤坂御用地から特別に仕立てられた送迎バスに乗って、豊島岡墓地の葬場に到着したのは葬儀開始の90分前でした。

参列席は、祭壇に向かう玉砂利の通路を挟んで、左右に特設テントが設置されており、左側の最前列に、野田総理、衆参両院議長、その後ろには各国駐日大使らが着席しました。さらに、その後列に歴代総理経験者、衆参両院議長経験者、現職大臣、国会議員ら合わせて300名以上のそうそうたる陣容です。

向かって右側には喪主、皇族方、親族、そして特別縁故者と表示された私共のエリアがあり、その後列は各都道府県知事、各議会議長と続き、やはり300名強を数えました。報道関係者や宮内庁スタッフ含め700～800名の人々がいるにも関わらず、時折、風で揺れる木の葉のざわめきと鳥のさえずりだけが響く静かな空間は、ここが東京であることを忘れさせ、神道が自然と融合した日本独特の宗教であることに気付かされました。

<http://mainichi.jp/graph/2012/06/14/20120614k0000e040173000c/001.html>

<http://mainichi.jp/graph/2012/06/14/20120614k0000e040167000c/004.html>

寛仁親王殿下のひつぎを乗せた霊車が豊島岡墓地に到着すると、荘厳な雅楽の葬送曲が演奏され、相馬司祭長らによる徒歩の先導で、お車が中央の砂利道をゆっくりと進んできました。お車の後ろには喪主の彬子女王殿下、次女の瑤子女王殿下、そして寛仁親王殿下付事務官の方々が続き、その間、参列者は起立して見守りました。菊の御紋がくつきりと入った霊車が横を通過すると、参列席のあちこちで涙をぬぐう姿が見られました。ひつぎが喪輿（そうよ）と呼ばれる「みこし」に安置されると、相馬司祭長が儀式の進行を担い、がんとの闘病を続けながら障害者福祉などの活動に尽力された寛仁親王殿下の生前のご活動や、お人柄をしのぶ祭詞を伝統の大和言葉で読み上げました。

その後、喪主、皇族方、親族、特別縁故者の順にひつぎの前に進み出て、最後の拝礼を行ないました。参列者が拝礼を終え、喪主席の彬子女王殿下、瑤子女王殿下にお辞儀をすると、それまで気丈に振る舞われていた両殿下も感極まったかのように泣きじゃくっておられたのが大変不憫で、いたたまれない気持ちで一杯でした。

<http://mainichi.jp/graph/2012/06/14/20120614k0000e040167000c/005.html>

葬儀の後、寛仁親王殿下のご遺体は落合火葬場（東京・新宿）でだびに付され、同墓地に埋葬されて永遠の眠りにつかれました。（了）

川原事務局長への取材記事掲載（産経新聞朝刊（神奈川版）2012年6月7日付）

寛仁さまご逝去「本当に尊敬できる方」 お人柄慕い悼む声次々

6日に逝去された三笠宮家長男の寛仁親王殿下は、心血を注がれた障害者福祉を通じ、誰もが利用可能なものづくりに取り組むUDや、障害者も楽しめるスポーツなど県内の団体とも長く交流された。寛仁さまの人柄に身近に触れた人々からは「本当に尊敬できる方でした」と悼む声が聞かれた。

寛仁さまが設立当初から総裁を務められる「国際ユニヴァーサルデザイン協議会」（事務局・横浜市青葉区）の川原久美子事務局長は「30年以上も前から障害者にするべきデザインをとの考えをお持ちでした。この分野に造詣が深く、協議会メンバーがみな尊敬しておりました」。

寛仁さまとはデザインを通して親交があり、有志が集まって平成14年にパシフィコ横浜（横浜市西区）で国際会議を開催した際には、資金集めや運営面のアドバイスを寛仁さ

まから受けた。大盛況のうちに終わり、その実行委員会を解散せず協議会を設立してはどうかとの寛仁さまのご意見で、1年後に協議会を発足させたという。「殿下の意思を継ぎ、日本からUDを世界に発信し続けます」と誓う。(以下、省略)

寛仁親王殿下には総裁としてIAUDのイベントに度々御成りいただきました。最近の写真を掲載いたします。

■第3回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2010 in はままつ (2010年10月)



(提供 花王(株))

無断転載禁止

IAUD 情報交流センター (IAUD サロン) :
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階
電話 : 03-5541-5846 FAX : 03-5541-5847
e-mail : salon@iaud.net